

かみぶんにし かみぶんのりやす  
上分西遺跡・上分乗安遺跡

事業名 松山管内埋蔵文化財調査  
(川之江三島バイパス建設埋蔵文化財調査)  
委託者 国土交通省四国地方整備局  
調査主体 財団法人 愛媛県埋蔵文化財調査センター  
調査場所 四国中央市上分町  
調査期間 平成17年4月1日～平成18年3月25日(予定)  
調査面積 4,160m<sup>2</sup>(予定)  
[上分西遺跡1,380m<sup>2</sup>・上分乗安遺跡2,780m<sup>2</sup>]



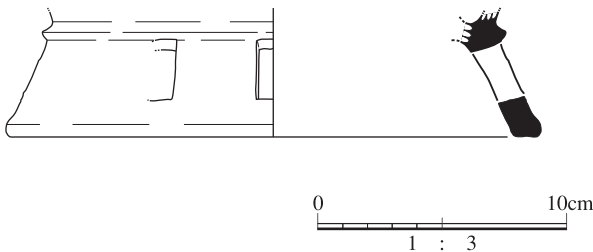
7世紀後半～8世紀の遺構 0 20m  
1 : 800

上分乗安遺跡遺構配置図(11月18日現在)



上分乗安遺跡で見つかった土馬(どば)

※土馬は奈良時代の律令社会で使われた呪(まじな)いの道具です。雨が降ることを祈ったり、疫神(えきじん)[災いをもたらす神]の乗り物として一部を壊すことで活動を止めたり、疫神を乗せて祓(はら)い去ったりするために使われました。



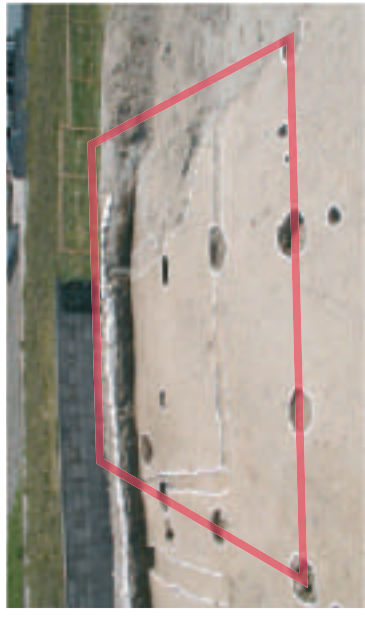
上分乗安遺跡で見つかった円面硯

※円面硯や刀子の出土は、当時、字の読み書きができた人たちである官人(宇摩郡衙の役人)の存在を想像することができます。



円面硯や刀子が使われた役所の様子  
(奈良文化財研究所編2002『飛鳥・藤原京展』図録より引用)





上分西遺跡9区上層 平安時代の掘立柱建物



上分乗安遺跡1区奈良時代の竪穴住居



上分乗安遺跡1区竪穴住居内から出土した遺物

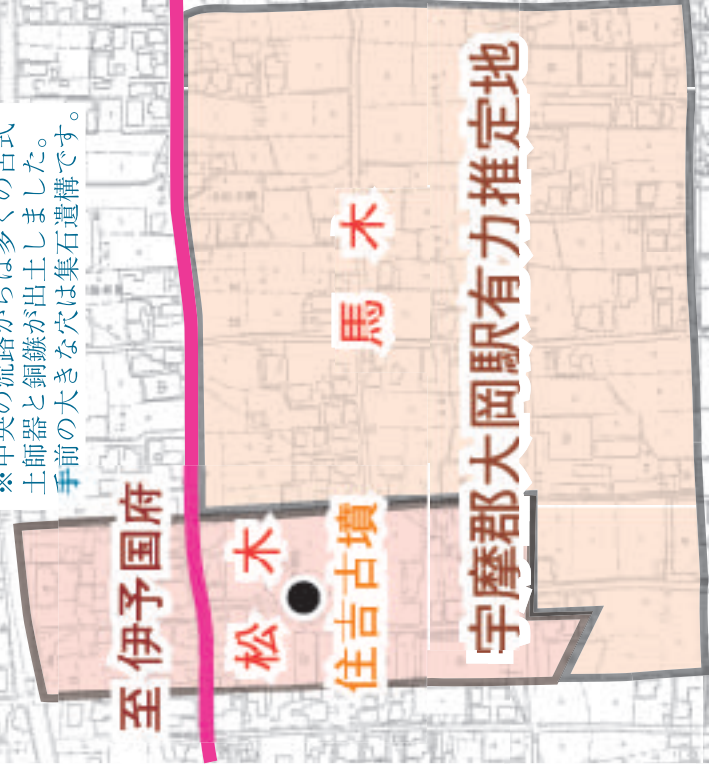
※この竪穴住居からは須恵器などにも多量の土錘(土製おもり)が出土しました。遺跡周辺で投網などの漁労を行っていたことが想像できます。



向山古墳

上分西遺跡9区下層遺構完掘状況

※中央の流路からは多くの古式土師器と銅鏃が出土しました。手前の大きな穴は集石遺構です。



推定 南海道

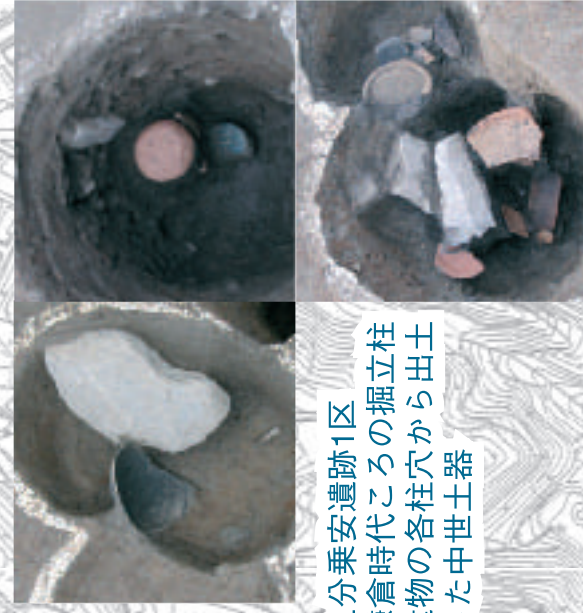
大道

至 讃岐国府

- 現在調査中
- 発掘終了調査区
- 今後調査予定



上分乗安遺跡1区 7世紀後半から8世紀ころの掘立柱建物



上分乗安遺跡1区 鎌倉時代ころの掘立柱建物の各柱穴から出土した中世土器

至 土佐国府

上分西遺跡9区下層 集石遺構(古墳時代初頭) ※多量の石とともに古式土師器が埋められていました。

※南海道を復元するにあたり、近世土佐街道や旧町並みの景観について、川之江高校村上憲市先生からご教示を得た。

古代の上分町





## 調査結果の概要

### 上分西遺跡

平成14年度より調査を開始した上分西遺跡では、縄文時代後期・弥生時代中～後期・古墳時代初頭・平安時代・室町時代の遺構・遺物が見つかりました。本年度の調査では、上層遺構で平安時代や室町時代の掘立柱建物、下層遺構で古墳時代初頭の竪穴住居や集石遺構、溝、流路などが見つかり、それぞれの時代に集落が営まれたことがわかりました。特に古墳時代初頭では流路や集石遺構からたくさんの古式土師器が出土しています。また流路からは銅鏃も出土しました。



上分西遺跡9区下層遺構 流路から出土した銅鏃

### 上分乗安遺跡

本年度より調査を開始した上分乗安遺跡では、上層遺構で奈良時代を中心に7世紀後半から8世紀にかけての竪穴住居や掘立柱建物が見つかり、須恵器や土師器といっしょに円面硯や土馬、刀子、土錘などが出土しました。特に当時の文房具である円面硯や刀子の出土は識字階層(字の読み書きができる人たち)、つまり官人(古代の役人)の存在を裏付けることができます。そして愛媛県で3例目となる土馬の出土からは律令祭祀が行われていたことを想像することができます。また本遺跡の近くに国府間を結ぶ道路(駅路)である南海道が通っていた可能性が高いこと、さらに宇摩郡大岡駅の推定地にも近いことなどから考えると遺跡周辺は古代交通の要衝であったことが指摘できます。これらのことと発掘調査の成果を考え合わせると、上分乗安遺跡には古代宇摩郡の郡衙(古代の役所)などの官衙関連施設に関係し、その中心的役割を果たした人たちが住んでいたと考えられることができそうです。

また鎌倉時代を中心とした12世紀後半から13世紀代の遺構・遺物も見つかりました。見つかった掘立柱建物の柱穴は約800穴に及んでいます。遺構からは白磁や青磁、和泉型瓦器なども出土しており、比較的規模の大きい中世集落が営まれていたことがわかりました。

さらに、下層遺構では調査途中ですが弥生時代後期から古墳時代初頭の遺構・遺物も見つかりました。



上分乗安遺跡1区下層遺構 弥生時代後期の溝と出土遺物